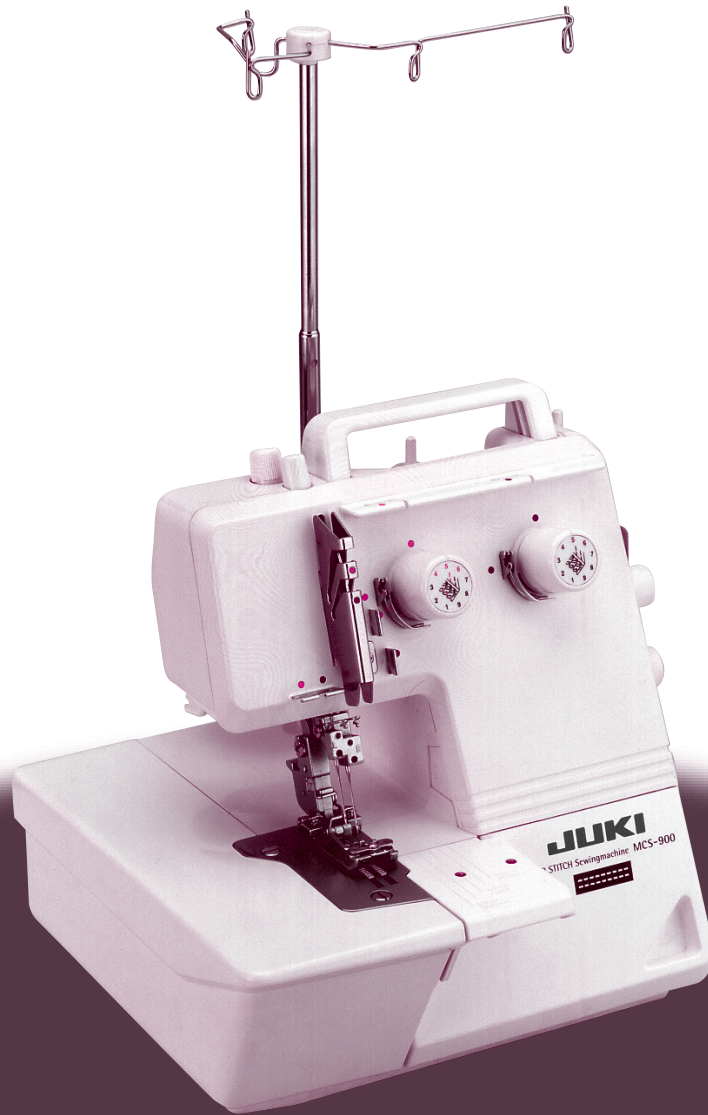


JUKI

2本針・3本糸(差動調節付き)
下面飾り縫いミシン
MCS-900

取扱説明書



注意

安全にご使用していただくため、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでも
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げまことにありがとうございます。

この下面飾り縫いミシン MCS-900 の特長をご理解していただき、正しく安全にご使用していただくために
どうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。

もくじ


安全にご使用していただくために	1	糸のかけ方	5・6
各部の名称	2	ルーパー糸、右針糸、左針糸	
糸立装置の組付け方	2	ためし縫い、正しい縫い目	7
ロック用、大型糸巻き糸、家庭用糸ゴマの場合		糸調子ダイヤルの合わせ方	7
付属品	2	差動調節	8
動かす前の準備	3	縫い終りの糸の始末	8
コントローラーのとりつけ方、電源／ランプスイッチ		カバーステッチの種類	9・10
各操作部とはたらき	3・4	ランプの交換	10
ルーパーカバーの開閉、布台の開閉、はずみ車について		掃除	10
押え上げレバー、押えの取り付け・取りはずし、針の交換、		仕様表	10
糸調子目安表、送り調節つまみ、押え圧調節つまみ		サービスをお申しつける前に	裏表紙


安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことから必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。


FOR USE IN JAPAN ONLY

 この表示は
禁止マークです。

 **警告** このマークの表示は感電、火災の
原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - ミシンのそばを離れるとき。
 - ミシンをご使用になったあと。
 - ミシンのご使用中に停電したとき。



 **注意** このマークの表示は感電、火災、けがの原
因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。
2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンを操作するときはルーパーカバー、布台カバーなどカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、メス、ルーパー、はずみ車、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。



6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。
7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。
8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。
 - 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
 - 針糸、ルーパー糸をセットするとき。

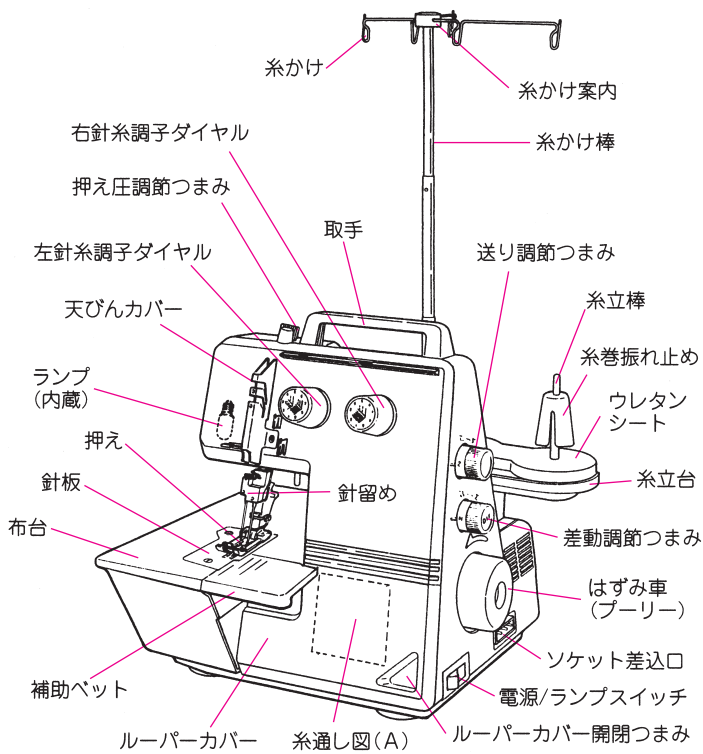


- ランプを交換するとき。
(ランプが冷えてから行ってください)
- 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。

9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。

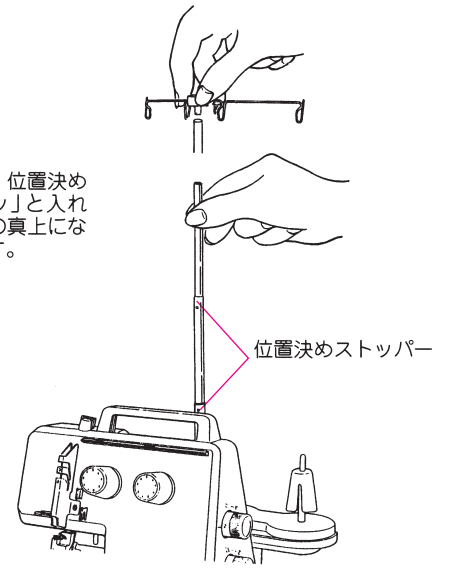
各部の名称

糸立装置の組付け方／付属品

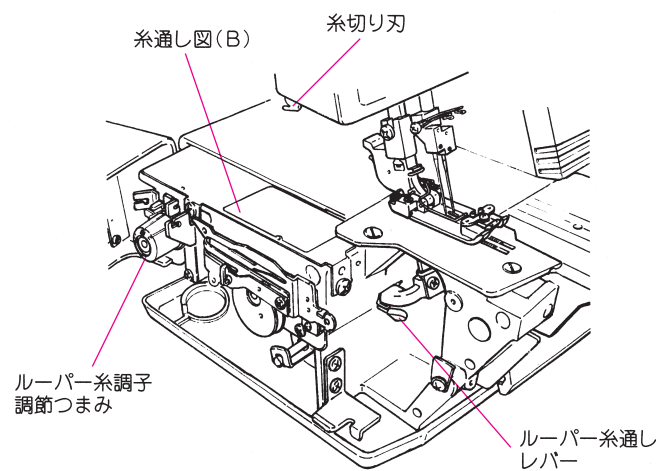


■糸かけ棒と糸かけ案内のセット

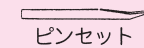
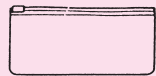
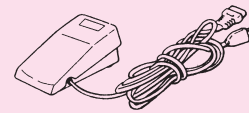
糸かけ棒を引き出し、位置決めストッパーに「カチッ」と入れて、糸かけが糸立棒の真上になるようにセットします。



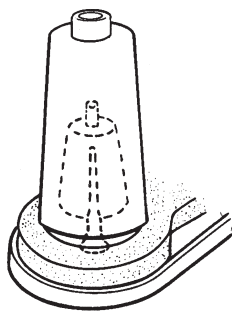
■布台を開けたところ **注意** 布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。



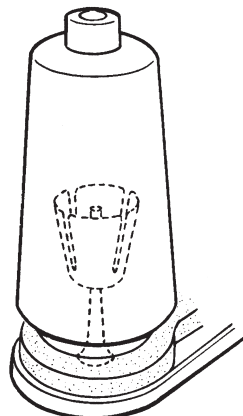
■付属品



■ロック用糸の場合



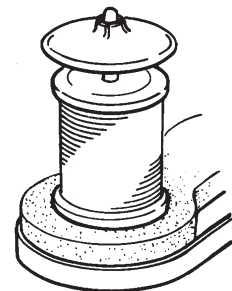
■大型糸巻き糸の場合



内径の大きい糸巻き糸は糸巻振れ止めを逆さにします。

■家庭用糸ゴマの場合

切り込み部

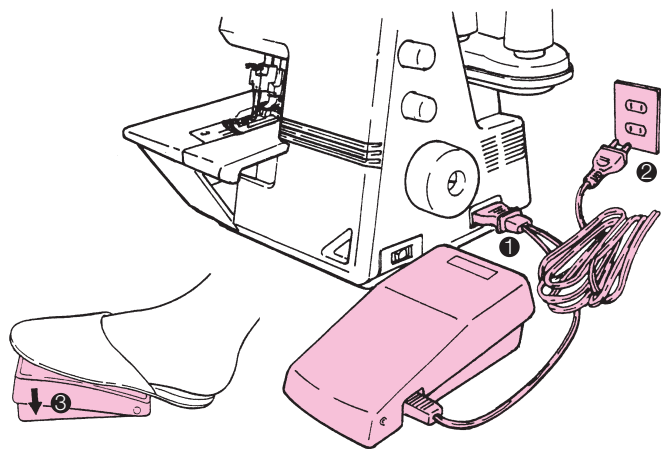


糸巻振れ止めを抜きとり、糸ゴマの切り込み部を下に差し込み、糸ゴマ当て座の凸部を上差し込みます。

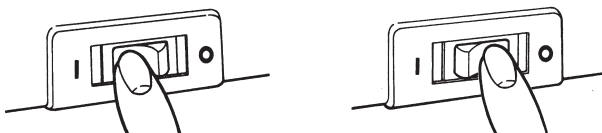
動かす前の準備・各部の操作とはたらき

■コントローラーをとりつけます。

- ①コントローラーをソケット差し込み口に差し込みます。
- ②つぎにプラグを室内コンセントに差し込みます。
- ③コントローラーの上に足をのせます。
コントローラーを強く(深く)踏むと速くなり、
弱く(浅く)踏むと遅くなります。



■電源/ランプスイッチについて



I側を押すと電源が入り
ランプが点灯します。

O側を押すと電源が切れ
ランプが消えます。



注意 ミシンをお使いにならないときは
下記のことを行ってください。

1. 電源ランプスイッチをO(切る)にしてください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

■ルーパーカバーの開閉について

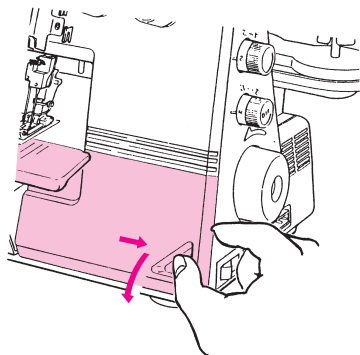
注意 ルーパーカバーを開けるときは電源スイッチを
切ってください。

・開け方

ルーパーカバー開閉つまみを
右側に引いてから
手前に倒します。

・閉じ方

ルーパーカバーを上へあげ、
軽く向こう側に押すと自動
的に閉じます。



■布台の開閉について

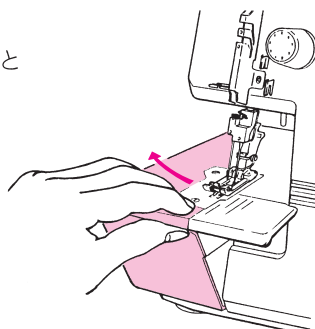
注意 布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。

・開け方

布台の手前を左側に押しますと
開きます。

・閉じ方

布台をミシンの方へ
押します。



■はずみ車(プーリー)について

はずみ車は手前に回します。

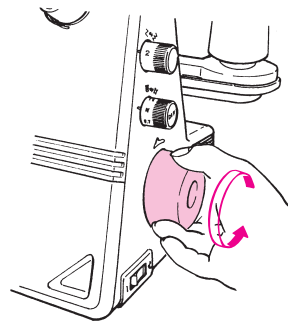
※糸を通したあと、

縫い始めに

はずみ車を回すときは

必ず手前に回して

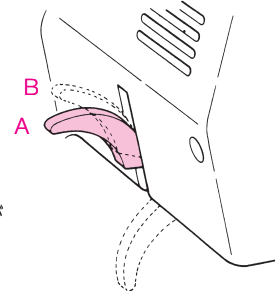
ください。



■押え上げレバーについて (押え上げレバーにより 押えをあげます。)

A. 通常の場合、A位置まで
上がります。

B. 押えの交換や厚布など押
えと針板とのすき間を必
要とするとき、B位置ま
で上げます。



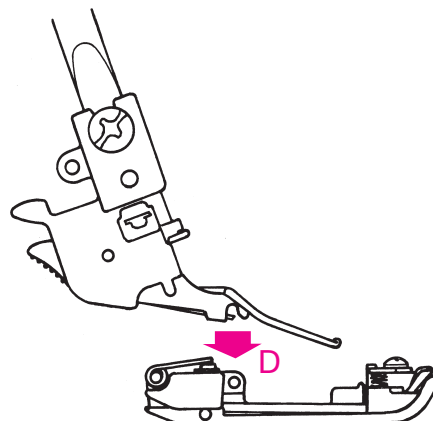
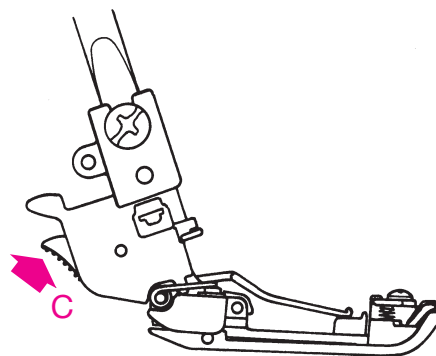
※A位置にレバーを上げると糸調子皿が
開きますので糸通しのときは、必ず
押えを上げてください。

■押えの取り付け・取りはずし



注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

1. 押えを上げます。
2. はずみ車を回し、針を一番上まで上げます。
3. C部を押すと押えがはずれます。
4. 押えをとりつける場合は押え上げレバーをB位置に上げ、押えを下に置き、押えのピンをホルダーの溝の下に(D)正しく置き、押え上げレバーを下げれば自動的にセットされます。

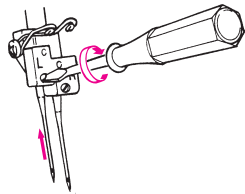
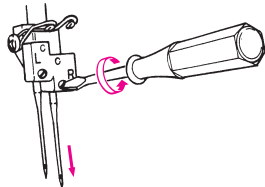


送り調節・押え圧調整

針の交換 **注意** 針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を手前に回し、針位置を一番上まで上げます。
2. ドライバー(小)を使い針止めネジをゆるめて針をはずします。
3. 新しい針の平らな面を向こう側にして針を入れ、針とりつけ溝穴の一番上まで差し込んでから、しっかりとネジを締めます。

針の平らな面



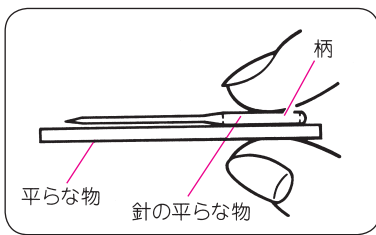
この下面飾り専用機については、シュメッツ家庭用針 130×705 Hタイプ(15×1)を使います。

針の種類	針の太さ	用途
シュメッツ家庭用針 130×705Hタイプ(15×1H)	12番	標準(薄物・普通物)用
	14番	厚物用

- ※お買い求めの際は、このタイプの針をご指定ください。
- ※ご購入時のミシンには、12番の針が取付けてあります。

針の調べ方

すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。
針先が曲ったり、つぶれているものは使わないでください。



糸調子の目安表

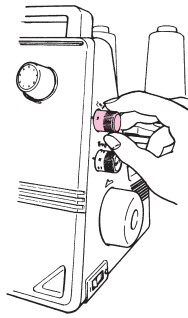
布の種類		糸の種類		縫い方向	縫い目の長さ	差動調節	ダイヤル目盛の目安		
区分	代表的な布の名称	針	糸				左針糸	右針糸	ルーパー糸
薄地～普通地	ニットサテン・メリヤス・綿ジャージ・ツウエートリコットなど	スパン糸#90系	スパン糸#90系	横	3.0～3.5	N～1.5	3～6	3～5	M
		スパン糸#80系	スパン糸#80系	横	3.0～3.5	N～1.5	4～7	4～7	M
		スパン糸#60系	スパン糸#60系	横	3.0～3.5	N～1.5	5～7	5～7	M
		化繊糸#50, 60系	化繊糸#50, 60系	横	3.0～3.5	N～1.5	3～6	3～6	M
厚地	ジャージ・スウェットなど	スパン糸#80系	スパン糸#80系	横	3.5～4.0	N	4～7	4～7	M
		スパン糸#60系	スパン糸#60系	横	3.5～4.0	N	5～7	5～7	M
		化繊糸#50, 60系	化繊糸#50, 60系	横	3.5～4.0	N	3～6	3～6	M

※ルーパー糸にウーリー糸などを使う場合には、ルーパー糸調子ダイヤルを弱くする「L」方向にあわせてください。

※上表は、主な糸と布の組み合わせであり、布地や糸の種類、縦・横の縫い方向の違い、縫い方(段部や布の縫い合わせ方)によっては、ダイヤル目盛の数値を調節する必要がありますので、必要に応じて調節してください。

送り調節つまみ(縫い目の長さ調節)

縫い中でも「1～4」の範囲で調節できます。



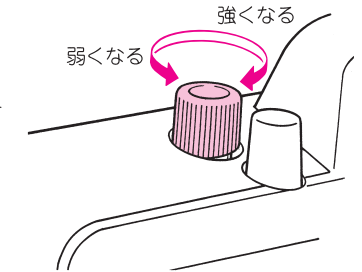
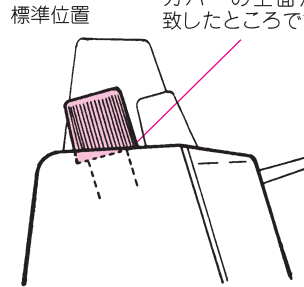
- カバーステッチの縫い目は「3～3.5」が最適です。

押え圧調節つまみ

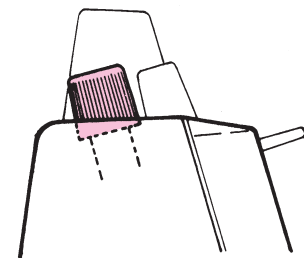
押えの圧力の標準位置は押え調節つまみの下端とカバーの上端が一致したところ です。

特殊な布地以外は標準位置で調節する必要はありません。

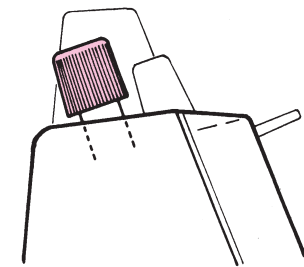
つまみの傘下部とカバーの上面が一致したところ です。



：普通地、通常のと き合わせます。



：押え圧力が強くなる。



：押え圧力が弱くなる。

糸のかけ方

美しい縫い目をつくるには…
正しい糸かけ順序で糸を通してください。

■準備 **▲注意** 糸かけ、糸通しのときは電源スイッチを切ってください。

1. 糸かけ案内をつけた糸かけ棒を一番上までのばします。
2. 針を一番上にします。
3. 押えを上げます。(糸調子皿が開きます)
4. 布台をあけます。
5. ルーパーカバーをあけます。

■糸かけ順序

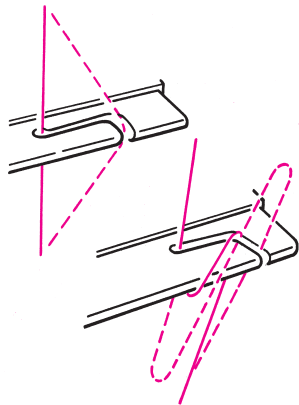
糸かけ順序を明確にするために糸かけ図と色表示がついています。
糸かけ手順は下記の順序で行います。

- 最初に、ルーパー糸 (紫色印)
2番目に、右針糸 (緑色印)
3番目に、左針糸 (黄色印)

糸かけ、糸通しには付属品袋に入っているピンセットを使うと便利です。

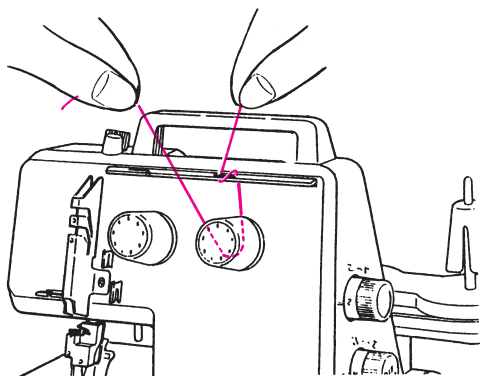
■第1糸案内の糸のかけ方

1. 糸案内内部のスキ間に糸を入れ、左側に引きます。
2. 糸案内板の下から出た糸を、下から上に持っていき、再び糸案内板のスキ間に入れて下方に引きます。



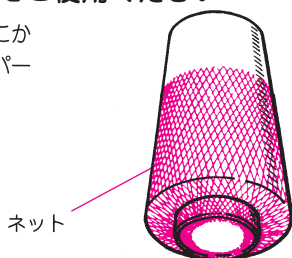
■糸調子ダイヤルの糸のかけ方

1. 糸をかけるときは、押えを上げます。
2. 糸を糸調子皿に正しく入れるために両手で軽く糸を引きます。



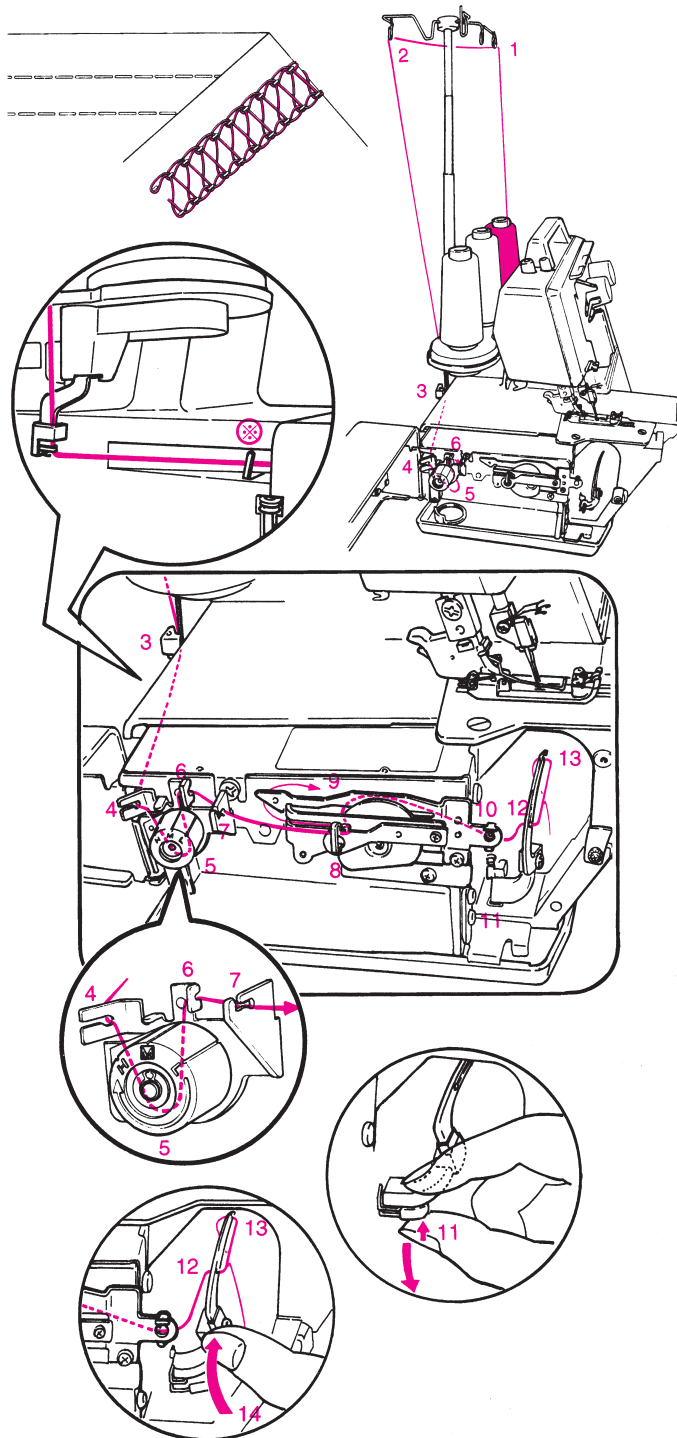
よ 撚りの強い糸にはネットをご使用ください

糸のよりが強く糸かけ案内などにか
らむ場合は付属のネットをルーパー
の糸ゴマにかぶせてください。



糸かけ順序 (1)

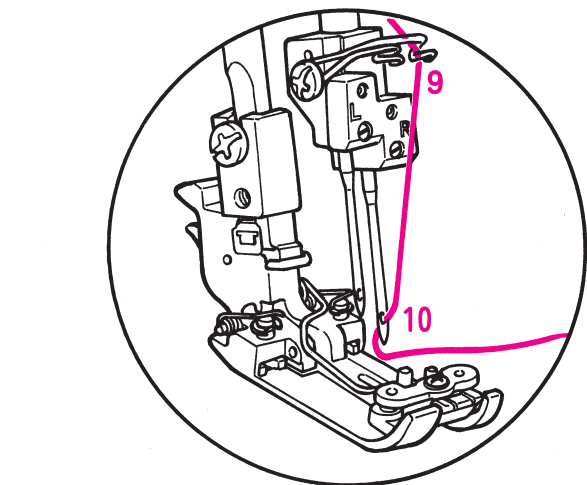
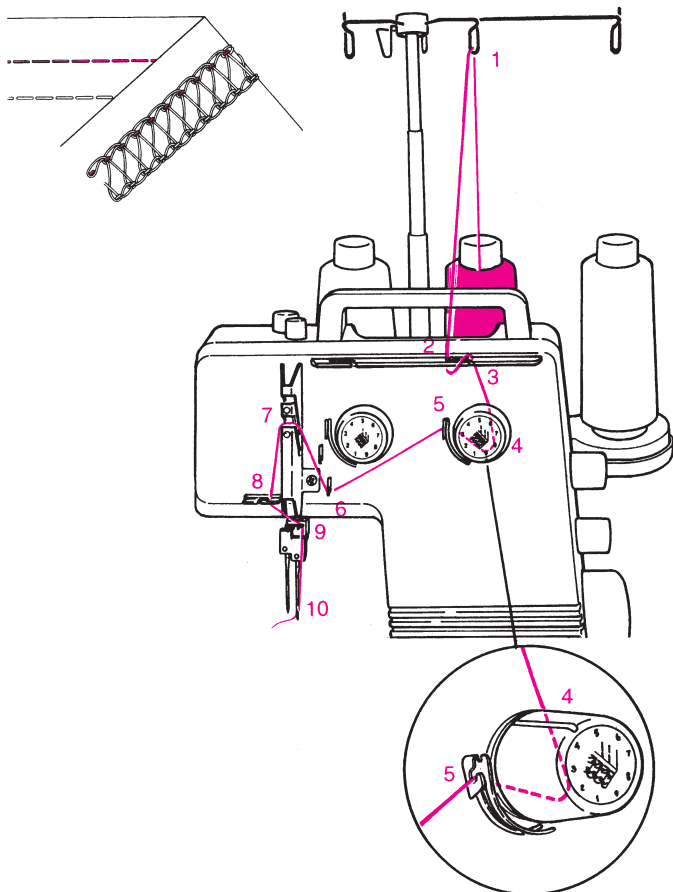
1番目の糸かけ ルーパー糸 (紫印)



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に前から後ろへかけます。
- (2) 1の糸かけ案内から2の糸かけ案内にかけます。
- (3, 4) 糸かけ案内にかけます。
※糸かけ案内に糸が入っているか確認します。
- (5) 糸調子ダイヤルにかけます。
糸を糸調子皿に正しく入れるために両手でかるく糸を引きます。
- (6, 7, 8) 糸かけ案内にかけます。
- (9) 糸案内溝に糸を案内します。
- (10) 糸案内にかけます。
- (11) はずみ車を手前に回して、ルーパーが一番左側にくるようにします。
ルーパー糸通つまみを指で押し上げて、指ではさみながらルーパーを下方向へ倒します。
- (12) ルーパーの後側から前へ糸を溝に通します。
- (13) ルーパー糸穴の前から後に糸を通します。
糸はルーパー糸穴から約10cm引き出しておきます。
- (14) ルーパーを押し上げて、もとの位置に戻します。

糸かけ順序 (2)

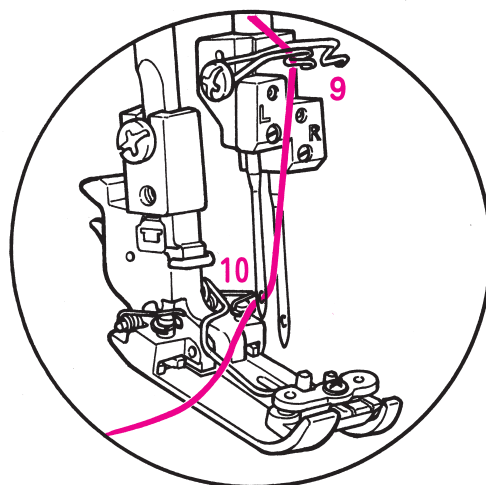
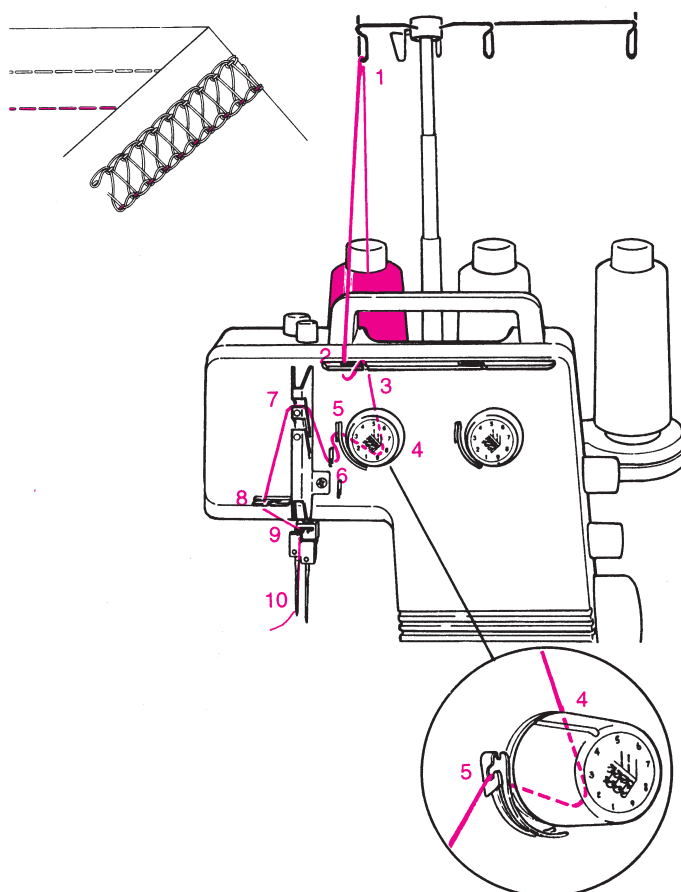
2番目の糸かけ 右針糸 (緑印)



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に、後から前へかけます。
- (2, 3) 第1糸案内板にかけます。
- (4) 糸調子ダイヤルにかけます。
糸を糸調子皿に正しく入れるために両手でかるく糸を引きます。
※押えが上がっているか再度確かめます。
押えが下がっていると糸調子皿が開きません。
- (5, 6) 糸かけ案内にかけます。
- (7) 針糸天びんガイドの下側の溝にかけます。(緑色の印があります)
- (8) 糸かけ案内 (右側) にかけます。(緑色の印があります)
- (9) 針棒糸案内 (右側) にかけます。
- (10) 右針の針穴に対して前から後へ通します。
ピンセットで糸を約7cm引き出して、押えの上にとらしておきます。

糸かけ順序 (3)

3番目の糸かけ 左針糸 (黄印)



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に、後から前へかけます。
- (2, 3) 第1糸案内板にかけます。
- (4) 糸調子ダイヤルにかけます。
糸を糸調子皿に正しく入れるために両手でかるく糸を引きます。
※押えが上がっているか再度確かめます。
押えが下がっていると糸調子皿が開きません。
- (5, 6) 下から上へ糸かけ案内にかけます。
- (7) 針糸天びんガイドの上側の溝にかけます。(黄色の印があります)
- (8) 糸かけ案内 (左側) にかけます。(黄色の印があります)
- (9) 針棒の糸案内 (左側) にかけます。
- (10) 左針の針穴に対して前から後へ通します。
ピンセットで糸を約7cm引き出して、押えの上にとらしておきます。

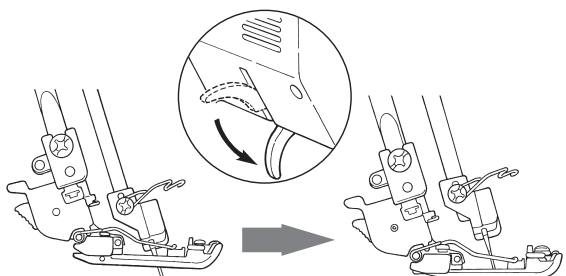
ためし縫い・正しい縫い目・糸調子の調整

■糸かけが終わったら、ためし縫いをしてみましょう！

二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか、調べます。

注意 押えを上げた状態で、ミシンを運転したりはずみ車を回さないでください。

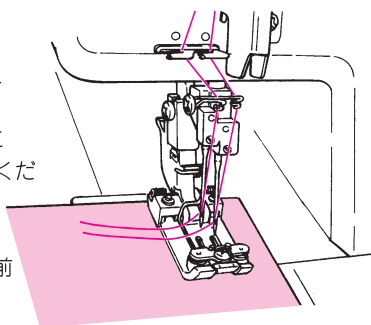
ミシンを運転したり、はずみ車を回す時には、必ず押えを下げてください。



押えを上げたままですと、布が進まず、糸がらみ・糸切れの原因となります。必ず押えを下げて、ミシンを運転したり、はずみ車を回してください。

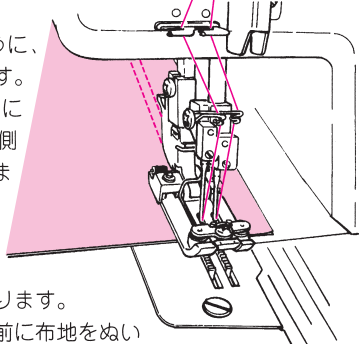
1. 縫い始め

- (1) 電源を入れます。
- (2) 押えを上げて布地を押えと針の下に入れます。
※このとき必ず押えの下に（奥まで）布地を入れてください。
- (3) 押えを下げます。
- (4) 1針目は、はずみ車を手前にまわします。
- (5) スタートさせます。



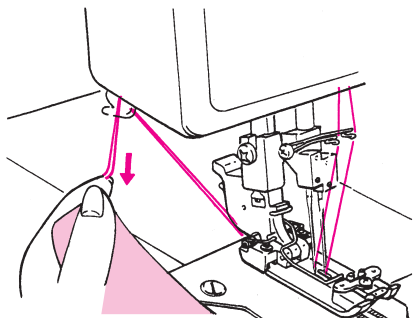
2. 縫い終わり

- (1) この縫い目は空環がでませんので、布端を越えないように注意してミシンを止めます。
- (2) 針の高さが一番低くなるように、はずみ車を手前にまわします。
- (3) その後、針が一番高い位置にくるようにはずみ車を後側（矢印と反対側）にまわします。
※この時はじめて針糸がルーパーからはずれて、布地が取り出せるようになります。
(2)・(3)の動作をする前に布地をぬいたりしないでください。
- (4) 押えを上げます。
- (5) 布地を左側に引っぱり出します。
※この時押えが上がっていないと、糸調子皿が開きませんので、糸が抜けません。
※空環とは：布地がなくて、糸の縫い目形状ができたものです。



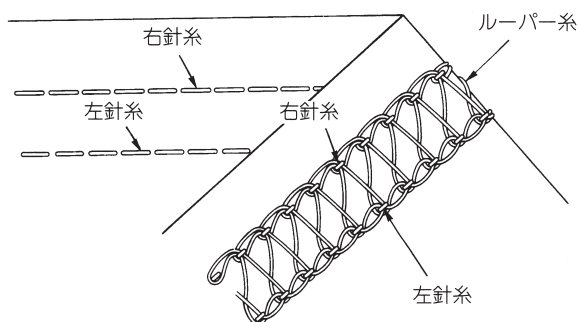
3. 糸の切断

縫い終わったら押えを上げて、引き出した糸は面部糸切り刃にかけて切ります。



■正しい縫い目

- 左針糸と右針糸が布表、裏の両面から見て糸の極端な浮きや遊びがない。

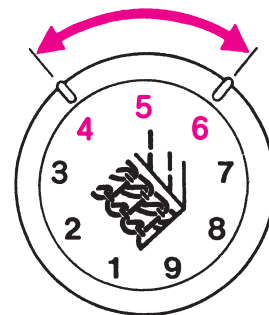


■糸調子ダイヤルの合わせ方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛（1～9）を調節するだけで修正できます。

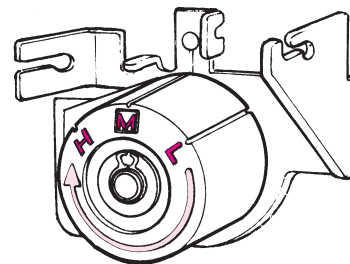
- 右針・左針の糸調子は、針糸調子ダイヤルを回すことで調整できます。

- ・強くするにはダイヤルを7～9の方向に回します。
- ・弱くするにはダイヤルを1～3の方向に回します。



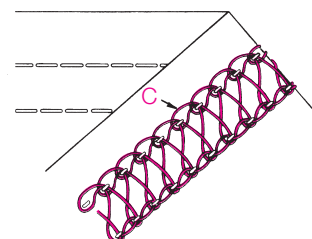
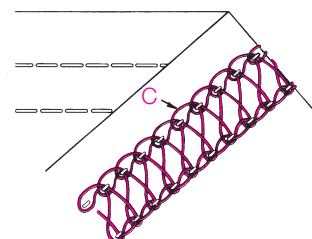
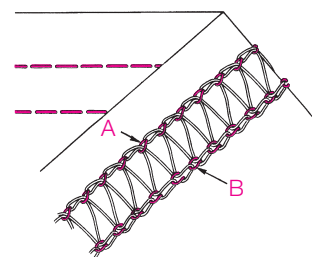
- ルーパー糸の糸調子は、ルーパー糸調子ダイヤルを回すことで調整できます。（※M・H・Lの範囲をこえて矢印と反対の方向へ無理に回さないでください。）

- ・標準的な糸調子は [M] に合わせます。
- ・強くするには [H] に合わせます。
- ・弱くするには [L] に合わせます。



■糸調子の調整の仕方

- ・右針糸が布地の裏側でういている場合(A)
➡右針の糸調子を強くします。（緑印のついているダイヤル）
- ・左針糸が布地の裏側でういている場合(B)
➡左針の糸調子を強くします。（黄印のついているダイヤル）
- ・ルーパー糸が布地の裏側で緩んでいる場合(C)
➡ルーパー糸の糸調子を強くします。（ダイヤルは布台の中）

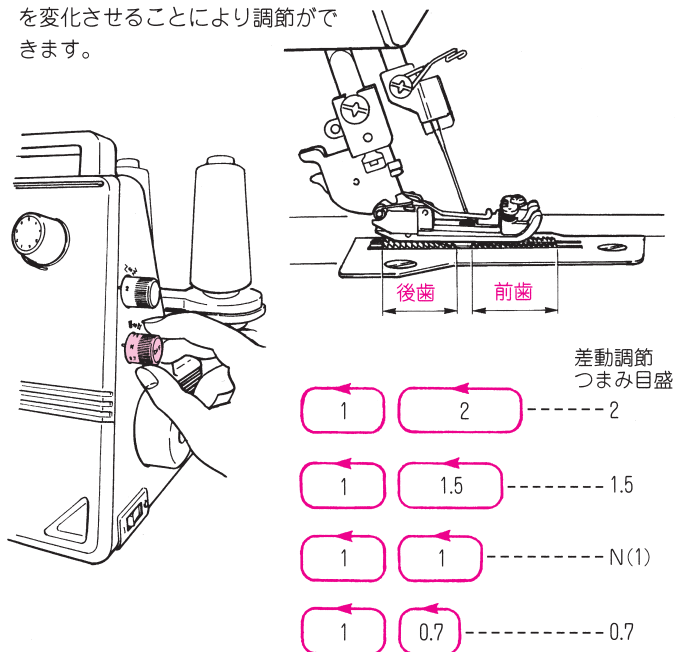


差動調節

■差動調節つまみ

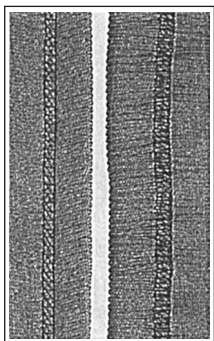
縫いちぢみや、縫い伸びしやすい布地は差動調節つまみを回しますと縫い「しわ」や波うった布地が平らに美しく仕上がります。

- 送り歯の前歯と後歯の動きの速さを変化させることにより調節ができます。



縫い伸びしやすい布地

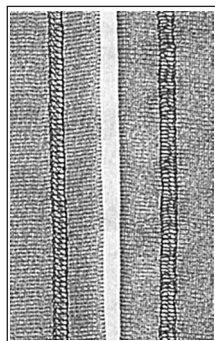
厚地ニット地
厚地ジャージー・スウェット
その他伸びる布地



差動調節つまみ目盛

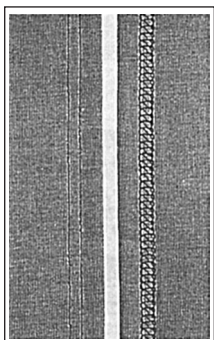
1~1.5

中厚ニット地
ニットサテン・メリヤス
綿ジャージー
ツウウェトリコットなど



1~1.5

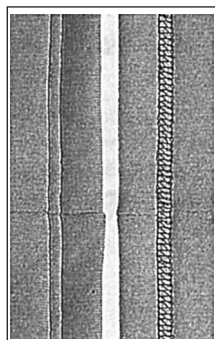
織布



N
(差動なし)

縫いちぢみしやすい布地

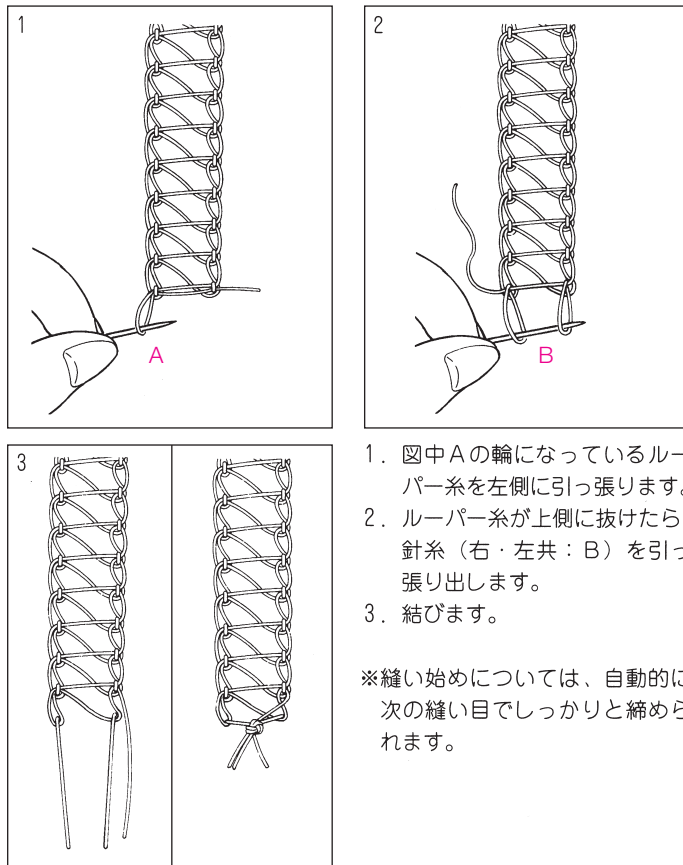
ジョーゼット
リネン
ローン



0.7

縫い終りの糸の始末

■縫い終りの糸の始末



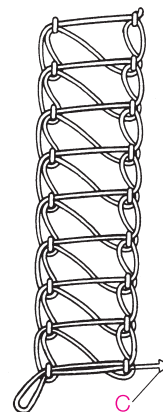
1. 図中Aの輪になっているルーパー糸を左側に引っ張ります。
2. ルーパー糸が上側に抜けたら、針糸(右・左共: B)を引っ張り出します。
3. 結びます。

※縫い始めについては、自動的に次の縫い目でしっかりと締められます。

■縫い目をほどきたい場合

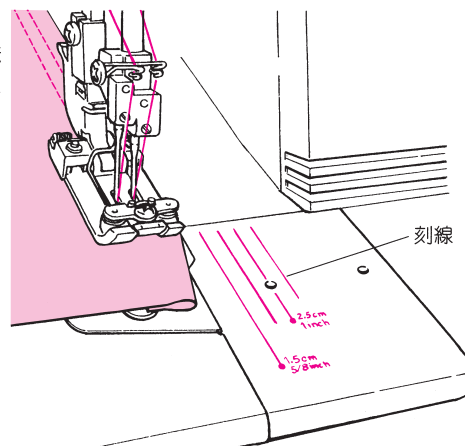
この縫い目は、縫い終わり側のルーパー糸(C)を引っ張ることでほどけます。

その後、表側から針糸を引っ張ると針糸は抜けます。



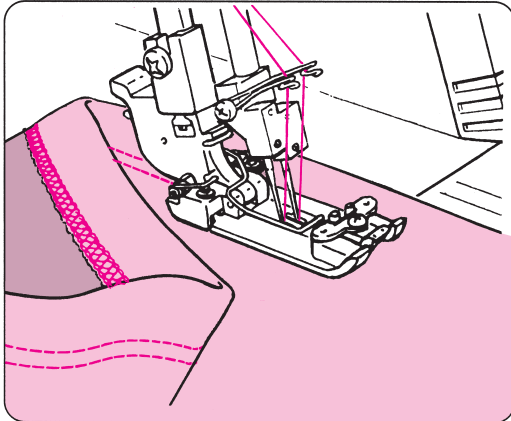
■補助ベッドの刻線について

補助ベッドの刻線は、左端から一定の寸法で縫うときに目安にします。



カバーステッチの種類

1 すそ上げ

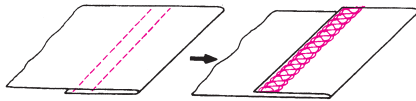


縫い目の長さ：
3～4mm
差動送り比：
N～2
(布地によります)

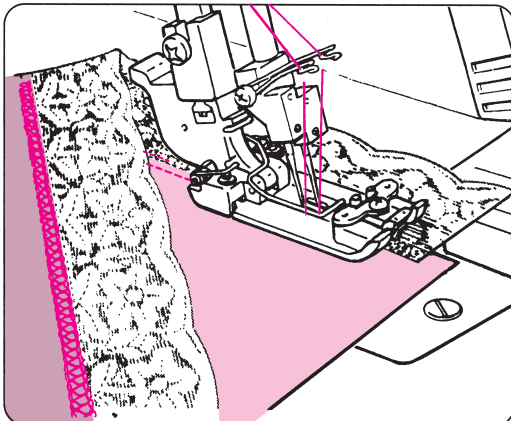
①すそ上げしたい幅をマークし、布を折りこみます。

②布地を押えの下に置き、補助ベッドあるいは針板のラインにそって布をガイドしながら縫います。

※この縫い方では、すそ上げが出来ると同時に、裏側の布端も縫い目で押え込まれます。余分な縫い代は、縫い目の近くで切ることが出来ます。



2 レース付け



縫い目の長さ：
3～4mm
差動送り比：
N～2
(布地によります)

①縫い代をマークします。

②上の布地の端を折り込みます。

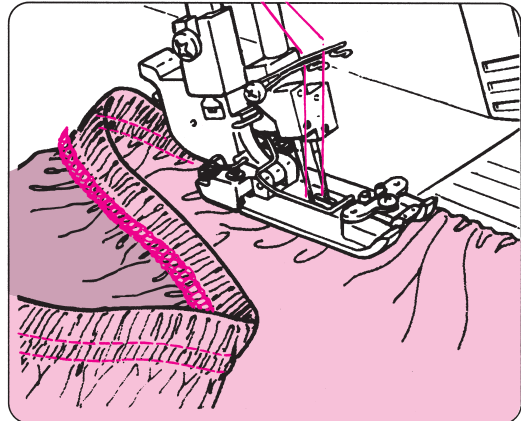
③上と下の布端を重ねます。

④押えのガイドに従って、布地の端をガイドしながら縫います。

※ゴムやレースを縫う時、それらを布地の上に置き、縫い代の上を縫うと、裏側の布端も縫い目で押え込まれます。



3 ゴムテープ付け



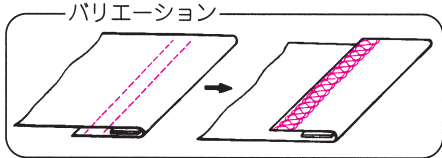
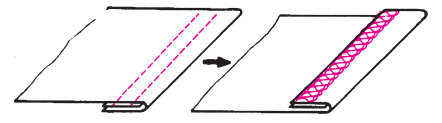
縫い目の長さ：
3～4mm
差動送り比：
0.7～N(1)
(布地によります)

①ゴムの幅に、布を下側に回り込ませます。

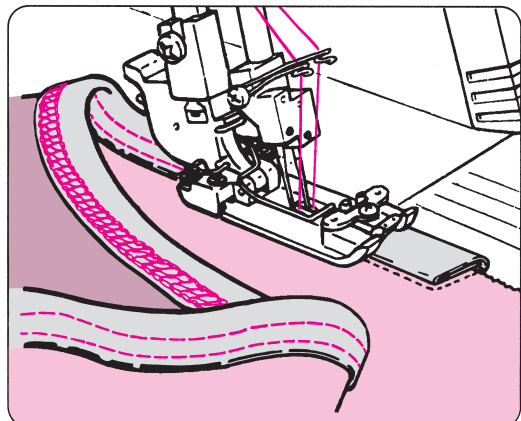
②押えの右端に沿って折り目をガイドします。(ゴムも布と同時に縫い込みます)

※下面飾り縫いは、弾力性と耐久性があり、引っ張っても元に戻るので、水着、トレーニングウェア、子供服、スカート、ズボンの腰バンドに有効です。

※バリエーション：ゴムの幅より大きく布を下側に折り込んで、ゴムをその内側に入れ、ゴムを縫い込まずに布端を縫う方法があります。



4 三ツ巻縫い



縫い目の長さ：
3～4mm
差動送り比：
N(1)

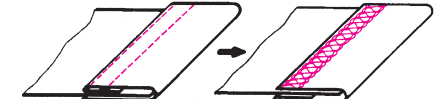
①必要な幅に、布地を切っておきます。

②必要な幅にマークを付け、折り込みます。

③折り込んだ布の間に、別の布を挿入します。

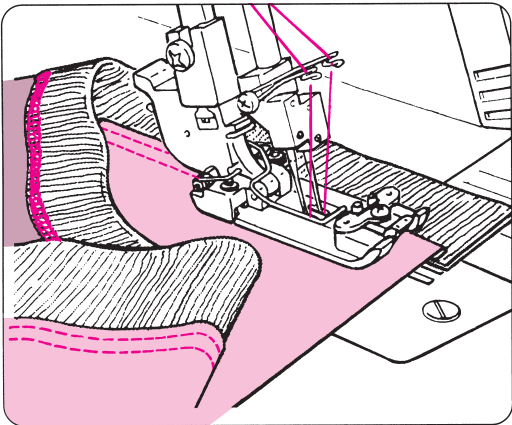
④折り込んだ布の左端を、押えの左側のガイドにそわせて縫います。

⑤この時、裏側の布端も縫い目で押え込まれます。余分な縫い代は、縫い目の近くで切ってもできます。



ランプの交換・清掃

5 リブ付け・伏せ縫い

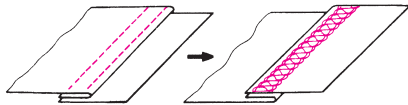


縫い目の長さ：
3～4mm

差動送り比：
0.7～N(1)

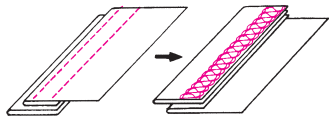
(リブ付けの場合)

- ①布を折り込みます。
- ②折り込んだ左端とリブを合わせます。
- ③押えの右側ガイドに沿って縫います。

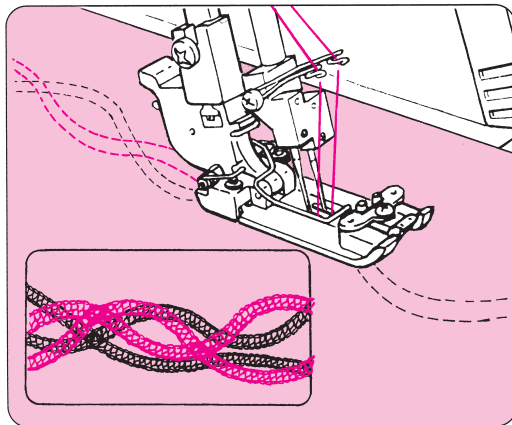


(伏せ縫いの場合)

- ①リブと布をオーバーロックで縫い合わせます。
- ②その縫い目の部分を片側にたおします。
- ③押えの右側ガイドに沿って縫います。
※この時、オーバーロックの縫い目は、下面飾り縫いの縫い目で押え込まれます。



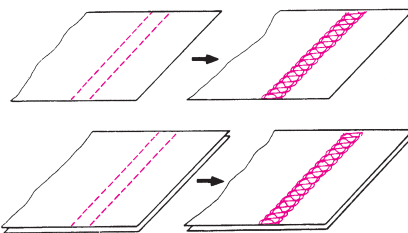
6 飾り縫い



縫い目の長さ：
3～4mm

差動送り比：
0.7～N(1)

- ①布の裏側から縫って、表側が使えるように縫います。
- ②ルーペ糸に飾り糸が使われるとより効果が大きくなります。



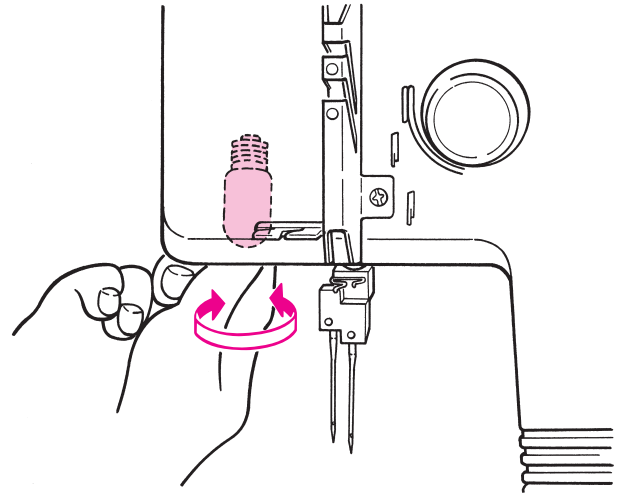
注意：2枚合わせの布でしっかりした布に縫って下さい。縫った後、不要な布は取り除きます。

■ランプの交換

- 注意**
- ・ランプ交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - ・ランプは冷えてから交換してください。

ランプをゆるめてはずし、新しいランプをとりつけます。ランプ消費電力は100V/15Wです。

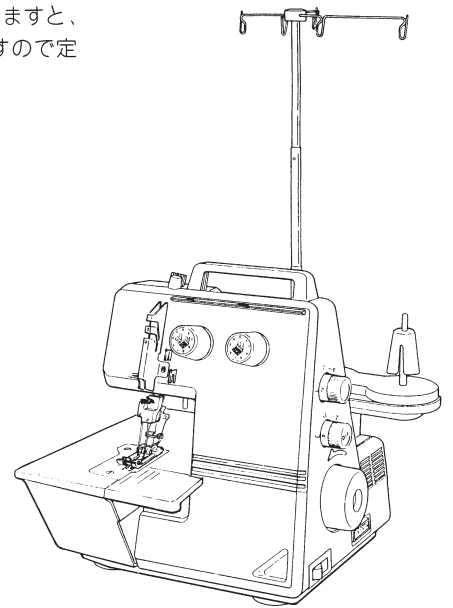
お買い上げ販売店でお買い求めください。



■掃除

- 注意**
- 清掃のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

ミシンをご使用になりますと、綿ぼりかたまりますので定期的にとり除きます。



■仕様表

項目	仕様
使用糸数	3本
使用針	左右共にシュメツ家庭用針 130×705Hタイプ(15×1H) #12、#14
針幅	5mm
差動送り比	0.7～N(1)～2.0
押え上げ量	5mm
縫い速度	最大1,500針/分
ミシンの大きさ(本体)	幅315×奥行250×高さ295(mm)
重量(本体)	7.0kg
定格電圧/消費電力	100V/100W 50/60Hz
ランプ消費電力	100V/15W

■サービスをお申し付けになる前に

次のような場合は故障ではありません。サービスをお申し付けになる前に、もう一度お確かめください。

現象	原因（理由）	処置方法	ページ
布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎるとき。	・ 押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	4
糸が切れる場合	①特に細い糸を使用していて、糸調子が強すぎるとき。	・ 針糸調子ダイヤルを弱くします。	7
	②糸掛けが間違っているとき。	・ 正しくかけ直します。	5・6
	③針の取り付け方が悪いとき。	・ 針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。	4
	④正常な針が使われていないとき。	・ シュメッツ家庭用針(130×705H)を使います。	4
針が折れる場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・ 新しい針に取り替えます。	4
	②針の取り付け方が悪いとき。	・ 針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。	4
	③縫っている最中に無理に引っ張ったとき。	・ 布はていねいに両手でガイドして下さい。	—
目飛びがする場合	①針糸の締めりが弱いとき。（針糸が浮いているとき）	・ 針糸調子ダイヤルを強くします。	7
	②針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・ 新しい針に取り替えます。	4
	③正常な針が使われていないとき。	・ シュメッツ家庭用針(130×705H)を使います。	4
	④押えの圧力が弱すぎるとき。	・ 押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	4
縫い目の調子が悪い場合	①糸調子が不完全なとき。	・ 糸が糸調子ダイヤルの皿の間にきちんと入っているかどうか確認します。	5
	②糸が引っかかるとき。	・ 3本の糸の糸通しが間違っていないかどうか確認します。	5・6
縫い目(縫った物)が伸びてしまったり波打っている場合	①縫い中に布が引っ張られたとき。	・ 縫い中に布をひっぱったりせずに丁寧に布をガイドします。	—
	②押え圧が強すぎるとき。	・ 押え圧を弱くします。	4
	③差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・ 目盛を正しくあわせませす。N～2	8
縫い目(縫った物)が縮んでしまっている場合	①針糸調子が強すぎるとき。	・ 糸調子を弱くします。	7
	②差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・ 目盛を正しくあわせませす。0.7～N	8
縫った後の布がもりあがってしまう場合	①針糸調子が強すぎるとき。 ②ルーパー糸が強すぎるとき。	・ 糸調子を弱くします。	7
モーターの故障	①雑音がする。 ②モーターが全然回らない。 ③火花が異常に大きい。	・ カーボンブラシを交換します。 (注) カーボンブラシの交換は、お買い上げの販売店にご相談下さい。	—

上記の方法でも直らないときは、お買い上げ販売店にご相談ください。

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
 - 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
 - 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
 - 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
 - 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
- 当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日(月～金) 9:00～12:00、13:00～17:45

Copyright © 2000-2011 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

A9150C09000-2

001111